

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1171800905
法人名	株式会社 寿エンタープライズ
事業所名	グループホーム草加
所在地	340-0051 埼玉県草加市長栄町560 (電話) 048-946-7270

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(平成19年5月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤16人, 非常勤5人, 常勤換算	18.5人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000 円	その他の経費(月額)	25,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(4月20日現在)

利用者人数	15名	男性	2名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.2歳	最低	71歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	越谷誠和病院、平田クリニック、医療法人社団 康寧会
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に立地され、静かな雰囲気に含まれている。開設から約2年半が経過しており、徐々にホームの特色が出てきている。その取り組みは、ホームの壁面を利用した利用者ご家族、職員の笑顔の写真にも表れている。利用者に寄り添い、ホームを訪れた人と楽しみを分かち合う、そんな雰囲気が感じられる。職員には研修の機会もあり、カンファレンスを定期的実施するなど、職員相互に連携も図り、より質の高いケアを目指している。近隣の住民とは、散歩の時に気軽に挨拶を交わし、自然体の付き合いができていく。また、民生委員を通じて、近隣の畑を借り、作物を収穫することなど、利用者の楽しみの幅を広げている。家族会の開催は、家族との信頼や和気あいあいとした関係作りに貢献している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念の表示に対しては、見やすく目にとまる掲示がなされ、改善されている。トイレの便座の高さについては、本部との手続き中で、改善計画はあるものの、まずは1箇所の改修を計画中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者を中心に職員全員で取り組んでいる。サービス評価は、「日頃忘れかけたことを検討する良い機会」という認識のもと、職員全員で真摯に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、1回開催されたのみであり、ホームの概要及び理解、また行事の計画などが議題であった。参加者は、利用者、家族の代表、地域包括支援センター職員、民生委員、職員等であり、今後は定期的開催する予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>職員は、家族がホームを訪れた時には声を掛け、意見や要望がないかを確認する。なお要望が出た場合、ホーム全体で取り組むべきことについて、職員間で検討し、改善に向けて努力をしている。また早急に対処が必要なことについては、申し送りをし、職員間で共有している。家族会の折にも意見が出しやすいような雰囲気作りに心がけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームとして、町会や自治会には参加していないが、外出の際には、近所の住民の方から声をかけてもらうような関係を築けている。急な雨などにも、通常の隣り同士のような声掛けが行われている。災害等緊急時には、協力を得られるよう向かいの住民に家族会から協力の依頼をしている。また、民生委員を通じ、近隣の畑を借りるなど少しずつ地域に溶け込む努力をしている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根ざしたホーム作り」を理念の1つとしてつくりあげている。ホーム内の数ヶ所に理念が掲げられており、職員は利用者一人ひとりの希望にあわせたケアを行うことを目標としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員はカンファレンスや申し送り時等に理念について触れ、確認しあう機会を作っている。また職員は、利用者の意思を尊重し、その人の身体や心の状態に合わせ、できる限り快適な生活ができるように努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会への加入はしていないが、民生委員を通じ、地域の情報を得て、利用者と職員が町内の防災訓練に参加した。またホームの行事には、近隣の住民も参加している。日ごろから、散歩の時などに挨拶を交わしたり、急な雨の時に声を掛け合うなど身近な近所づきあいができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に職員全員で自己評価に取り組んでおり、日々の生活で忘れかけていたケアの振り返りをする機会としている。今後も自己評価や外部評価を活かして具体的な改善に活用し、サービスの質の向上に努めていく考えである。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年4月に1回開催した。メンバーは、地域包括支援センター、民生委員、利用者、家族の代表などである。内容としては、今後のホームのあり方や期待などの意見交換が中心であり、今後は定期的な開催を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当者には、毎月ホームの概況報告を行っている。また担当者からは、生活保護者の入居相談や書類上の指導を受けるなど、日ごろから情報交換を行い、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族がホームに来所した時は、必ず声をかけ、利用者の近況報告をしている。また利用料の請求時には、それぞれの担当者が、手書きで、温かみ溢れる手紙風の状況報告を家族宛に発信している。その際、担当者の自己紹介も交え、日々の生活の様子を具体的に伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の窓口には施設長があっており、家族が相談しやすい雰囲気作りに努めている。家族からは建設的な意見が多く寄せられるので、職員で話し合い、サービスの改善に向け取り組んでいる。また家族から出された要望は、引継ぎノートに記載され、職員間での引継ぎと情報の共有ができています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所から今までの間に、ユニット間の異動や退職があったが、異動や退職後も、ホームの行事等で利用者や顔を合わせた時には利用者に声をかけてもらうなど、職員の交替による利用者のダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修及び外部研修を問わず、定期的に行われており、正職員もパート職員も、受講の機会がある。最近では、普通救命講習も取り入れた。また同法人のグループホームでの研修も実施し、利用者との関り方などを学ぶことにより、日々の支援に活かしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域には、いくつかのグループホームがあるが、特に交流はない。通所介護事業所などが参加する事業者連絡会に、出席をしているが、現時点ではグループホームのPRに留まっている。		同じ地域のグループホームとして、地域への関わり方や情報交換、ホーム間交流などに取り組む、なお一層のサービスの質の向上や職員育成に役立つ実践的な連携を図ることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>入居者が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所相談があった場合は、必ず利用者及び家族にホームに来て見学していただき、安心して入居できるように十分話し合いをしながら、入居を決定している。また家族から情報や意向を確認することで、良好な関係作りを築いている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>入居者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、入居者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、入居者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と共に「ありがとう」が言える関係であり、利用者と掃除や配膳等とともにいながら、物を大切に扱うことを教えてもらうなど利用者が和やかな生活を送れるよう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、入居者本位に検討している</p>	<p>一度は納得されて入居したものの帰宅願望が強い利用者もあり、職員と家族でよく話し合い、時には一度帰宅してもらい、少しずつ馴染ませていくように支援することもある。また、入居時には家族に協力が得られることやホームに望む事などの意向を書面でいただいている。</p>		
2. 入居者がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>入居者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、入居者、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族がそれぞれ望むことを把握し、ケアマネジャーを中心にケアカンファレンスを行う。その際、主に居室の担当職員から、利用者の様子や今後の見通しなどが報告され、意見交換しながら介護計画が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、入居者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状況によって、計画は6ヶ月ごとの定期的な見直しと、状況の変化に応じた見直しを行っている。その際ケアカンファレンスで意見交換をし、現状に即した計画の見直しに取り組んでいるが、アセスメントやモニタリング等の記録が未整備となっている。</p>		<p>定期的及び状況の変化に応じた計画の見直しを行う際には、モニタリングの記録や家族、利用者の要望などの変化の記録を活かし、十分なアセスメントが行われることが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 入居者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院介助等について柔軟に対応している。また、併設のデイサービスの一般浴(広いお風呂)への入浴希望者には、対応したこともある。また、お祭りやお茶会などデイと協働で開催し、楽しんでいる。		
4. 入居者がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 入居者及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医には、毎週来訪していただき、緊急時にもすぐ相談できる体制を作っている。また、利用者がかかりつけ医で受診の場合は適切な診察がうけられるよう支援をしている。別の病院で受診の場合は、基本的に家族に任せている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から入居者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	がんの末期の利用者については、協力医と連携をとり、職員と家族で対応方法を共有しながら終末期を迎えた事例がある。今後も利用者、家族の希望に沿えるような対応を心がけていく方向でいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録や業務日誌などは、個人情報が出れない場所で記録するように心がけている。また入室する時は、利用者に必ず断って入室している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜遅くまで起きている利用者や朝早めに起床する利用者には、一緒にお茶を飲んだり、話をしたりして対応している。食事はゆったりと、自分のペースで食べられるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、基本的には食材会社に委託しているが、利用者の記念日等には、畑で取れた野菜や手作りのおやつなど、好みに合わせたものが食卓に並ぶ。食事の支度は、主に職員が行っているが、おしぼり等の配布や下膳、食器洗い等職員と利用者が力を合わせて取り組んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームは個室で、一人ひとりゆっくりと入浴ができる。2日に一度は入浴と一応決めてはいるが、朝風呂を希望する利用者や毎日入浴をする利用者には、それぞれの要望に沿ってできる限り応えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事や掃除、裁縫、皿洗いなどそれぞれの経験や役割に応じた支援をしている。また、ユニットごとに利用者の意向が異なることもあり、「今日は何をしようか」と利用者の意向を確認し、グループや個人でレクリエーションに参加できるようにしている。ホームではペット(犬)を飼っており、一緒に過ごす利用者もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩が好きな利用者は、職員とともに随時出かけているが、散歩が苦手な利用者には、ドライブやルーフバルコニーでの日光浴等を実施している。また近所に買い物に出かける時もあり、できるだけ自分で支払うよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはドアチャイムがあり、人の出入りが確認できるようになっている。夜間以外は、玄関、バルコニーとも鍵をかけずに対応している。外出しそうな様子を見つけた場合は職員がさりげなく声をかけ、一緒についていくなどの配慮をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定し、1ヶ月に一度避難訓練を行っており、記録や反省が活かされている。ホームの向かい側の家には、家族会を通じて、緊急時の協力を依頼してある。この地域は水害も予想され、シート、飲料水、食料等の備蓄もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には、食材会社を利用して栄養バランスの取れた献立になっており、協力医と連携し、栄養摂取について相談している。水分量は、1日1000ccを目安に利用者の好みの飲み物を用意したり、散歩、入浴後の飲み物を工夫したり、巡回時のお茶入れなどに気を配っている。摂取が十分でない利用者は、チェックしながら申し送りをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に鉢植えが置かれ、居間の縁側には小さな家庭菜園がある。ホームの壁には、所狭しと装飾や行事の写真が貼られており、利用者の楽しそうな笑顔が、訪れたご家族にも一目でわかるよう工夫されている。また、浴室前に小上がり風の畳コーナーがあり、入浴後の休憩にホッと一息つける場所の確保もしてある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、入居者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、入居者が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに合わせて、身の回りの品や家具などが持ち込まれ、居心地の良い場所になっている。テレビやタンス、仏壇、使い慣れたベッド等が配置され、家族の写真や花が飾ってある部屋もある。家族の要望があれば、寝具等の用意もあり、宿泊もできる。		